



発行:青森市教育委員会事務局文化学習活動推進課 (Email:bunkagakushu@city.aomori.aomori.jp)

〒030-0801 青森市新町 1 丁目 3-7 TEL:017-718-1384 FAX:017-718-1372

地域の財産を次のステージへ（本郷小学校編）



年度末を間近に控え、令和7年度の活動の締めくくりの時期となりました。各学校では、今年度の活動のまとめ・次年度の計画を進めているかと思います。

今回は、今年度で閉校となる本郷小学校をご紹介します。同小学校は、多くの行事や活動を通して地域と学校とが深く結びついています。次年度から子どもたちは浪岡南小学校へ通うこととなりますが、地域の財産を今後どのようにしていくか、その思いを両校に尋ねました。

【本郷小学校 奥崎健二校長】

本郷小学校は、今年度をもって閉校となり、令和8年4月1日から浪岡南小学校と統合となります。明治26年の創立から133年にわたり、地域とともに歩んできた学校です。

本校には、地域とともに活動しているものがたくさんあり、例えば、運動会では児童や保護者の他に、地域の方々がたくさん参加してくれます。町内会や消防団、本郷ねふたの会、保育園などたくさんの方々と一緒になって大いに盛り上がります。

また、廃品回収を春と秋の2回行っていますが、地域の方がそれぞれの回収場所に運んだり、直接学校に持ってきてくれたりします。そうしてたくさんの資源ゴミが集まり、収益金は児童の活動費の一部として使わせてもらっています。この他にも餅つき会や本郷カルタ大会など、地域の方々とふれ合える楽しい行事がたくさんありますが、学校が閉校となっても継続して続けられるものはないかを、統合先の浪岡南小学校とも相談しているところです。

〔廃品回収作業〕



〔須藤推進員 奥崎校長〕



学校はなくなりますが、ここに暮らしている人は変わらずいるわけですので、本郷地区の地域人材を今後も大切に、教育活動に協力してもらるように推進員さんとともに働きかけていきたいと考えています。

〔運動会前の整地作業〕



【本郷小学校 須藤裕子推進員】

本郷小学校は保護者の方はもちろんのこと、地域の方も学校に対してとても協力的な方が多いです。学校がなくなっても、これまで行ってきた様々な行事等で力を貸してくださった方々には、今後も協力を呼びかけていければと考えています。また、浪岡南小学校の推進員さんとも今後情報共有していければと思います。

【浪岡南小学校 福士竜也校長】

本郷小学校とは、数年前から校外学習等で子ども同士の交流を続けてきました。ですから、子どもたちはもちろん、地域の行事等で私にも気軽に声をかけてくれるほど親交が深まっています。統合元年となりますが、何も心配はしていません。

新しい仲間とともに楽しく、笑顔あふれる学校にしていって欲しいと願っています。



★令和7年度の学校訪問を終えて〈小学校編〉

地域学校協働活動やCSにおいて、こんな活動が実現できたらとか、こんなことがあればいいのにと、皆さんが温めている「夢」のようなものを前号(55号)の中学校編に引き続き、今回は小学校編をご紹介します。



◎ 小学校【校長】

- 1 子どもの見守りや支援に地域の力を(朝・中・昼の休み時間、学習時、教育支援センター、特別支援学級等)
- 2 学校と地域で行事・イベントの共同開催(地域ねぶた、音楽会、楽しく遊べるもの、おもてなしのもの等)
- 3 校内空き教室の活用(ねぶた展示、地域の美術館、集いの場所、地域の拠点、地域の人が緩く繋がれる所等)
- 4 地域防災(避難所設営訓練等)

その他: ボランティア数の増加と活動の充実、他団体と共同して安全マップ作り
CSによる学校情報のさらなる周知、大学とのコラボレーション



◎ 小学校【教頭】

- 1 学校と地域で行事・イベントの共同開催(地域ねぶた、〇〇祭り、音楽会、クリーン作戦、収穫祭、コロナでなくなったものの復活、〇〇への感謝の会等)
- 2 子どもの見守りや支援に地域の力を(登下校時、休み時間、学習時、教育支援センター、特別支援学級等)
- 3 地域ボランティアの増加及び活性化(若い世代のボランティア、主体性のあるボランティア活動、図書ボランティア、読み聞かせ、クラブ活動講師、人材バンク作成等)
- 4 校内空き教室の活用(〇〇カフェ、〇〇サロン、出入り自由なスペース、職員室に地域の方用スペース等)
その他: 地域防災、キャリア教育、地域への情報発信、地域施設の有効活用、祖父母参観日、高校・大学とのコラボレーション



◎ 小学校【推進員】

- 1 地域ボランティアの増加及び活性化(ボランティアの楽しさのシェア、婦人会・町内会の活用、オーバーPTAの活用、図書ボランティアの充実、固定化の打破、保護者への周知等)
- 2 学校と地域で行事・イベントの共同開催(地域ねぶた、料理教室、とにかく楽しめるもの、中学校とコラボ、他の行事と抱き合わせで、歴史探索ツアー、防災キャンプ等)
- 3 校内空き教室の活用(地域への開放、公民館的なものに、ボランティアの拠点等)
- 4 伝統芸能の継承(〇〇踊り、〇〇音頭、地域ねぶた等)
- 5 子どもの見守りや支援に地域の力を(休み時間、学習時等)



その他: 学習に地元資源を活用、地域が子どもたちに注意できる環境に、
地域に向けての地域学校協働活動やCSのさらなる周知、子どもの放課後の受け皿作り

全体として、地域と学校がコラボしてイベントの開催、子どもの見守りや支援、ボランティアの充実、学校施設の有効利用などの「夢」が多くありました。今後少しでも実現できればいいですね！

【コラム】ハンドシェイク 公民館や市民センター等との融合

古川小学校は、校舎と市民センターが一緒になった学社融合の施設です。学校の図書室や体育館、音楽室、市民センターのプールなど学校の教育活動や地域の方々の様々な活動に使用されています。

学校教育におけるボランティア募集の際には、地域の方が目にしやすいよう市民センター1階ホールの縦覧コーナーにチラシを置かせてもらっています。

古川小学校では、子どもたちのためのボランティア活動として、地域の方が多く活躍しています。おそらく、学校と地域との垣根を越えた活動が普段からあり、地域の方にとって、学校がより身近な存在となっているのではないかと考えます。



古川小学校はある意味特別なケースかもしれませんが、例え近くに公民館や市民センターがなくとも、工夫次第では様々な所と協力関係を築き、活動の手掛かりとすることができるのではないのでしょうか。

編集後記・とあるCSの朝のあいさつ運動に触発され、朝自宅前を通った中学生に「おはようございます。」と声をかけてみました。ちょっとびっくりした顔をしましたが、「おはようございます。」と返されました。うれしい気持ちとともに勇気を出して言った自分をちょっと褒めたくまりました。〈西村〉

